

提携米通信

2020年5月号・黒瀬農舎



若返り成功！2020.4.15撮影
我が家の庭の桜。豊かな花が咲きました。

コロナにめげず庭の桜は若返りました。

新型コロナがこんな大騒動になるとは、ほとんどの方が予想してなかったと思います。

この騒動で仕事が出来ない。収入の道が閉ざされた。など東日本大震災と同様に、生活基盤が破壊された人が沢山いらっしゃると思います。

早い収束を祈るばかりです。

このコロナも大変ですが、当地の天候は、3月始めから、季節が2ヶ月も進んだような、暖かい日があったと思えば、急に季節が2ヶ月も逆戻りする寒い日になったり、また、冬に雪がなかった反動のように、大雨や、ミゾレ混じりの寒い雨の日が多く大荒れで心配です。

4月中頃以降になっても、雨が多く、気温が上がらず、早く種蒔きを終えた方であっても苗の生育が大幅に遅れています。

このように体感的には「寒い4月」ですが、桜の開花は、どうしたことか、私の知る限りでは一番早く、例年に比べても、10日から2週間早く開花を迎えました。また、満開以降は、雪が降ったり、寒い雨の日がほとんどで10日余り経っても「満開」のままです。

ところで「桜切るバカ、梅切らぬ馬鹿。」と、桜の剪定は樹を痛めると嫌われますが、桜の名所、弘前城の桜は、大剪定によって、樹を若返らせているのが有名です。

これは、リンゴ産地で育まれた果樹の剪定技術の賜物のようです。

移住した時に、我が家の庭に植えた桜（ソメイヨシノ）は、40年を経た頃より、花芽の密度が極端に少なくなるという老化が顕著になって来ました。そこで、弘前城の剪定方法を習い、心配しながらも3年前の厳寒期に思いきって若返り剪定を断行しました。

大剪定3年目の今年、見事に若返り成功！ 10年余り前の密度の高い花芽が復活して、今年には実に素晴らしい花が咲きました。大満足です。

コロナが収まった来年の春のこの時期、我が農舎のロッジを是非お訪ね下さい。

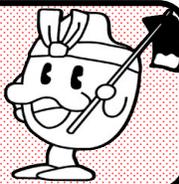
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445
秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887

E-mail: akita@kurose.com Web: [提携米 黒瀬農舎](#) [検索](#)



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。
変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までご連絡下さい。

★お米のご贈答利用も宜しく願います。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応とすることがあります。ご了承をお願いします。また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

折角の桜も菜の花もコロナの犠牲者です。

我が村自慢の桜と菜の花ロードは、悪天候にもめげずに今年も奇麗に咲きました。



でも、コロナ騒動で「桜と菜の花祭り」は中止となり、もったいない限りです。

表のページのように、桜は早く咲いたものの、満開から10日余りの間、一日中好天だった日は全くなく、まるで晩秋の時雨ときどきのような悪天候の毎日です。

左は、たまたま陽が射した時に撮った写真ですが、人影はまばらです。

今年は寒い春なので、種蒔きを少し遅めにしました。

右の写真は、農薬を使わない方式の種粉消毒です。

種粉をお湯に10分程度浸け、素早く冷水に浸して冷ます。という方法の「冷水温湯浸法」です。

従来はこのお湯を60℃で行っていたのですが、2、3年前から一部実験を重ねてきて、効果的だったので、今年から、この温度を5℃上げて65℃にすることにしました。

お風呂などに使っていた古い灯油ボイラーと1000リットルの桶、これにポンプを組み合わせた、自作の消毒装置です。

今までの60℃の場合は、灯油ボイラーに付いている温度調整機能によって、60℃をキープできましたが、ボイラーには65℃の設定機能がなかったので、配線を切断交換し作り変えました。

最近は、このような中国製の結構精密・軽便な部品が実に安価に入手できるようになって大助かりです。

でも、精度などの信頼性は、大いに疑問ですから、サーモスタットを数個直列に設置し、万一誤動作するサーモがあっても、ミスの出ない対策を行っています。



手作りの種粉消毒装置

第一回目の種蒔きは、例年よりも少し遅めの4月26日に行いました。

種蒔きは、家族総出の仕事です。

今年は新型コロナ問題で、3人の孫たちは学校がずっと休みになっているので、賑やかな種蒔きになりました。

倉庫の一角で、種を蒔き、写真の手前に積み上げられた苗箱を30℃に暖めた部屋に移動させ、3日間置き、土の上に芽が1センチ程度出るまで待ちます。

その後、この苗箱を、露天にビニールを敷いた苗床に並べ、浅く水を張ります。

この育苗方法は「プール式育苗法」と呼ばれています。

プールにする（水を張る）目的や理由は、2つあります。

一つは、水による保温です。

もう一つは、苗の時期は病気に弱いです。そのため一般には殺菌剤が使われますが、我が農舎の場合の有機栽培では農薬を使いません。プールにすることで苗床を嫌気状態にして、好気性病原菌の繁殖を大幅に抑える仕組みです。



家族総出の種まき作業